

連載 材料・用具のはなし 第1回

和信ペイント株式会社
執行役員営業部長兼お客様センター長
寺尾伸彦
TEXT BY NOBUHIKO TERAU



子供達の豊かな創造力を育む、図画工作。思いをめぐらせ、たくさん
のアイデアを出し、自分たちの手で作品
をつくる。子供たちの笑顔があふれる楽
しい時間。その最後の仕上げ作業に使
われるニスは、仕上げの楽しさ、仕上げ
の大切さを学ぶ重要な工程です。

昭和58年頃までは、学校教材では主
にラッカーが使用されていました。しか
し、ラッカーはきつい溶剤でツーンとした
刺激臭があり、当時、授業中に子供達
が、溶剤の臭いで気分が悪くなり保健室
にかけこむといったことが、新聞にも取
り上げられました。丁度その頃ニスの専門
メーカーである和信ペイントより、現在
の環境にやさしく安全な「水性つやだし
ニス」が開発され発売され、ラッカー
に替わる新しい材料として注目、一気に
全国に広がりました。現在では幼稚園か
ら小学校・中学、高校にいたる幅広い
学年、授業で使用されています。

「水性つやだしニス」は、水彩絵の
具の上に塗っても色がにじまず、美しい
仕上がりを実現、臭いが少なく、乾燥
が早いので、学校教材として最適です。
小学校では紙粘土工作の上塗りに、ま
た「水性オイルステイン」と併用して、木
工作品の木の持つ木目や木質感を表現
する上塗り用として小学校高学年、中学
美術で使用されています。また中学技術
家庭科で作成する本棚や椅子などの実
用的な工作品には、丈夫な塗膜の出来
るウレタン樹脂を使用した「水性木工ウ
レタンニス」が使用されていま
す。

ニス塗りの楽しさは、自分で
作り上げた、紙粘土や木工作
をさらにワンランク上の高級感

のある仕上げにすることが出来ること
です。塗った瞬間の濡れ色感はお母さん
のマニキュアを塗ったときのような
ドキドキ感があります。また木工作品で
ひとつとして同じものがない木目や木質
感をうまく表現できたときはうれしいも
のです。小さいときから仕上げの楽しさ、
仕上げの喜びを学ぶ、学校教育における
ニス塗り体験は、最後の仕上げまで手
をぬかず、細かいところまで気を配る
Made in Japanの「ものづくりの精神」に
繋がるといっても過言ではありません。

これから図工・美術のさまざまなシー
ンでニスを使用され、子供達のものをつ
くる楽しさと、出来上がりの感動を味
うお手伝いができればと希望します。

さて、本誌の創刊と時を同じくして、
和信ペイントではクレヨン画の上に
ニスを塗って保護する、新しい習慣を提
案します。

クレヨンは子供たちが最初に体験する
画材です。自由に線を描く、色を意識す
る、塗りつぶす。この経験を通して自分
を表現する心を育むことが出来ます。
一方で子供たちが描いたクレヨン画は親
や本人にとっても大切な思い出です。よ
く運動会などで、ビデオやカメラで自分
の子供を撮影している風景をみます。私



も子供が小さい時はボーナスをはたいて
ビデオカメラを買い撮影していました。こ
れはこれで大切なことだと思います。しか
し、子供たちが描いた思い出の絵は写真
や動画では映せない、その時の子供の
気持ちや思いを表現します。

クレヨン画にニスを塗ることによって、
ニスの塗膜で思い出のクレヨン画をい
つまでも保護します。またニスの塗膜独特

の新しい仕上がり感が得られ、色移りや
ベタつき感もしません。クレヨンで描いた
らその上にニスを塗って仕上げる。まるで
シャンプーとリンスのような関係。この新
しい提案を推進するために、この度、和
信ペイントではクレヨン専用のニスを発売
します。これから様々な教材展示会や、
講習会で提案活動を行い、この素敵な
習慣が定着することを願っております。

仕上げの楽しさを学ぶ
ニス塗りに加え、
クレヨン画の上にニスを塗る
新しい習慣を提案



暮らしを明るくカラフルに
Washin Paint

ニスの和信

永年蓄積された専門メーカーとしての
経験と技術を生かし、高品質で、
人と環境にやさしい塗料づくりを行
っています。

「仕上げが楽しい 仕上げが大切」

http://www.washin-paint.co.jp 和信ペイント株式会社

〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-18
お客様センター：☎0480-48-2725